

町史

とっておきの話

269

只見町総合政策課

中野 陽介

只見ユネスコエコパークがめざすもの②

―只見の自然環境を守る(1)―

ユネスコエコパークの事業

ユネスコエコパークは「人と自然との共生」を実現するためのものです。そのために、①自然を守る、②地域資源を絶やさず活かしながら地域社会を発展させる、③それらを達成するために学術調査と研究をすすめる材を育成しようとしています。

只見町では、ユネスコエコパークの精神にのっとり、「豪雪に育まれた自然環境と生活・文化を守る



▲木道が湿原と一体となってしまった大曾根湿原(点線部分が木道)



▲湿原入口部分の木道を撤去した大曾根湿原

り活かす」ため、さまざまな事業を行っています。今回は、自然を守る取組みについてご紹介します。

大曾根湿原の保護と保全

大曾根湿原は、梁取地区大曾根山の麓に位置する約二・五haの高層湿原で、町指定の天然記念物です。湿原は、水域と陸域の接点であることから多様な動植物の生息・生育地となるとともに、特有の環境に依

存した動植物が存在しています。そのため生物多様性の保全の上で重要な生態系と言われます。事実、大曾根湿原も湿原環境に依存する貴重な動植物が生息・生育しており、町の生物多様性にとって大きな役割を果たしています。一方、大曾根湿原内には、かつてその保全と観察の便を図るため木道が敷設されてきました。しかし、現在、その木道も年月を経て腐朽あるいは湿原に埋没する状況にありました。これでは木道の役割を果さないばかりか、かえって人を湿原内に踏み込みやすくさせ、悪影響を及ぼす危険性ははらんでいました。さらに木道が湿原内の水の流れをさえぎり、湿原の一部が乾燥し、湿原植生が減退している様子も観察されました。こうしたことから大曾根湿原の保護と保全を図るべく、湿原に入る入口部分の

木道を撤去して湿原内に人が入り込むことができないようにしました。湿原内には一部の木道が残っていますが、すべてを撤去すると、かえって湿原にダメージを与えてしまう可能性があるの

で、入口部分のみにとどめました。さらに、湿原内に残る木道は、スリット加工を施し、水の流れを促すようにしました。また、梁取地区の方々にご協力いただいて湿原を周遊できる遊歩道を整備することができました。

巨樹・巨木の保全

巨樹・巨木の存在は、その地域の自然度の高さを示す指標です。また、教育や観光(エコツーリズム、グリーンツーリズム)の中で利用できる資源にもなり、保護・保全すべき対象です。只見町には集落の周辺に巨樹・巨木が多数ありますが、その中に黒沢地区の牧ノ平にあるあがりこ型樹形のコナラ巨木群があります。あがりこ型樹形とは、かつて薪材生産を目的とした雪上伐採と萌芽再生を繰り返した結果でできたあがりこ型樹形です。コナラのあがりこ型樹形は全国



▲黒沢地区のあがりこコナラ巨木群

的にも珍しいものです。そのうえ独特の樹形をもった巨木群は魅力的です。それは只見町の人々の生活と森林の関わりを今に伝える貴重な文化遺産とも言えます。しかし、近年、ナラ枯れの影響を受け、その一部が枯死する被害がでています。ナラ枯れはカシノナガキイムシという体長五㎞ほどの昆虫が運ぶナラ菌によって引き起こされます。そこで、ナラ枯れの影響からあがりこコナラを保全するため、健全なあがりこコナラの木の根元にドリルで穴を開け、注射器で殺菌剤を注入しました。二〇一五年は約九〇本のあがりこコナラに薬剤を注入し、その多くがナラ枯れの影響を回避できました。ただし、薬剤の効力は二年間であるため、継続した保全措置が必要で